

## 【指導事例3】小学校言語障害通級指導教室（2年児童・他校通級）



本事例では、自立活動の時間において、どのような指導目標を立て、授業づくりを進めていけばよいのか迷っていました。そこで、学習指導要領解説自立活動編に示されている「流れ図」\*1や教育センターの研究物を参考にしながら、対象児童の実態から考えられる具体的な指導内容を設定しました。

\*1：学習指導要領解説自立活動編P28「流れ図」

### 対象児童の実態

- ・主訴：構音障害
- ・カ行・ガ行の発音に誤りがあり、タ行・ダ行へ置換している
- ・理解力があり、学習面や生活面については、同学年の児童と比べて問題は見られない
- ・構音器官の形態に問題はないが、構音器官の運動機能に未発達な部分がある
- ・自分の発音に誤り音（カ行音・ガ行音）があることは認識しているが、日常生活では誤り音があっても気にせずに話をしている
- ・カ行音を正しく聞き分ける力が弱く、単音レベルでは正しい音の聞き分けをすることができているが、単語レベルではカ行音とタ行音の聞き分けができずに間違えることがある
- ・発音が不明瞭なため、日常生活の中で、話し掛けた相手に聞き返しをされることがある
- ・正しいカ行音の聞き分けができずに、平仮名や片仮名の表記を間違えることがある



### ○ 対象児童の実態から設定した自立活動の指導目標

#### 長期の指導目標（1年間の目標）

- ・自分自身の誤り音を自覚し、正しい構音操作を身に付け、カ行・ガ行を正しく発音することができる
- ・ことばの教室での活動の中で、話すことを楽しみ、進んで話そうとすることができる

#### 短期の指導目標（2学期）

- ・構音器官の運動機能を高め、カ行音の正しい構音操作を習得し、単音レベルで正しく発音することができる
- ・カ行音の正しい音と誤り音の聞き分けができる
- ・ことばの教室での活動に意欲的に取り組み、楽しくやり取りをすることができる



### ○ 指導目標を達成するための具体的な指導内容

- ア 構音運動を調節する力を高め、正しい発音が定着するような活動をする  
【健康の保持(4)、心理的な安定(3)、コミュニケーション(2)】
- イ 音韻意識を育て、音の弁別や自分の発音をフィードバックできるような活動をする  
【健康の保持(4)、心理的な安定(3)、コミュニケーション(2)】
- ウ 自分の構音の状態について客観的に捉え、状態を肯定的に捉えることができるような活動をする  
【健康の保持(4)、心理的な安定(3)、コミュニケーション(3)】

(ア) 指導内容と学習の場面を  
決める

(ア) 指導内容と学習の場面を決める

選んだ具体的な指導内容

- ア 構音運動を調節する力を高め、正しい発音が定着するような活動をする  
【健康の保持(4)、心理的な安定(3)、コミュニケーション(2)】
- イ 音韻意識を育て、音の弁別や自分の発音をフィードバックできるような活動をする  
【健康の保持(4)、心理的な安定(3)、コミュニケーション(2)】
- ウ 自分の構音の状態について客観的に捉え、状態を肯定的に捉えることができるような活動をする  
【健康の保持(4)、心理的な安定(3)、コミュニケーション(3)】



構音指導においては、具体的な指導内容のア・イ・ウが相互に関連しているため、全ての具体的な指導内容について取り扱うこととしました。

step1 選んだ具体的な指導内容を「(児童が) ~できる」で区切って分ける

「~できる」で区切って分ける

- ア 構音運動を調節する力を高め、 / 正しい発音が定着するような活動をする
- イ 音韻意識を育て、 / 音の弁別や自分の発音をフィードバックできるような活動をする
- ウ 自分の構音の状態について客観的に捉え、 / 状態を肯定的に捉えることができるような活動をする



「『~できる』で分けた指導内容」

- ア 構音運動を調節する力を高めることができる  
正しい発音が定着するような活動をするすることができる
- イ 音韻意識を育てることができる  
音の弁別や自分の発音をフィードバックできるような活動をするすることができる
- ウ 自分の構音の状態についてより客観的に捉えることができる  
自分の発音の状態を肯定的に捉えることができるような活動をするすることができる



具体的な指導内容の文章を「~できる」で区切って分けることで、指導内容を整理することができました。

step2 「『~できる』で分けた指導内容」を、どの学習の場面で指導するのかを決める



対象児童は、他校通級であるため、それぞれの「『~できる』で分けた指導内容」は通級指導教室で取り扱うこととしました。また、「できる」ようになった力は、その都度日常生活で生かすように指導することとしました。

(7)指導内容と学習の場面を  
決める

(イ)授業内容を  
考える

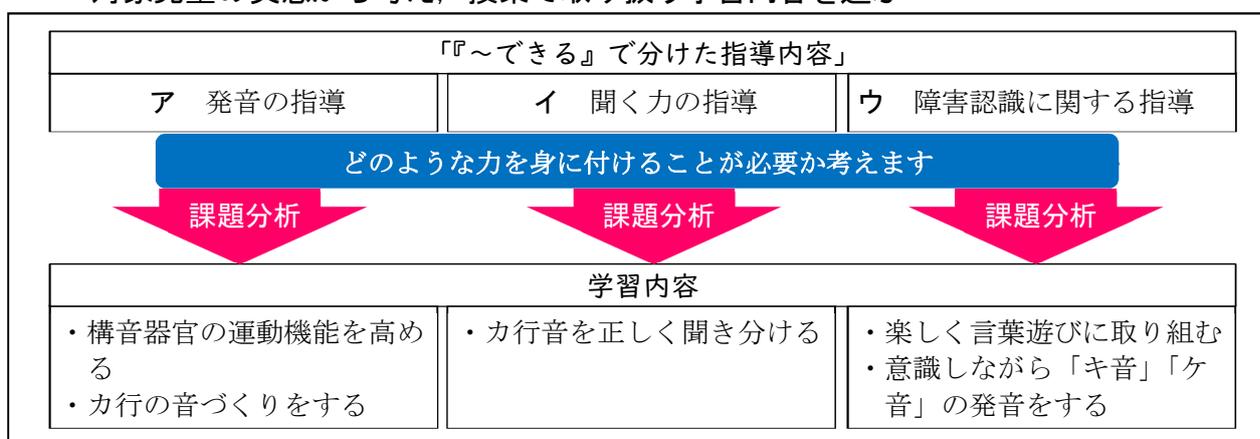
## (イ) 授業内容(学習内容, 題材と目標等)を考える



今回の授業では、前頁の「『～できる』で分けた指導内容」のア・イ・ウは、それぞれア 発音の指導、イ 聞く力の指導、ウ 障害認識に関する指導であると考えました。そこで、3つの指導内容について、それぞれに対象児童がどのような力を身に付けることが必要かを対象児童の実態から考え、取り扱う学習内容を決めていくこととしました。

step1

「『～できる』で分けた指導内容」について、どのような学習内容が考えられるか、対象児童の実態から考え、授業で取り扱う学習内容を選ぶ



構音指導を行う際には、ア・イ・ウ3つの指導について、取り扱う必要性や優先順位、学習の順番等を、その都度児童の実態に合わせて考えることが重要です。今回は、対象児童の実態（カ行の発音の改善に向けて）から、上記の学習内容にしようと考えました。

また、発音の改善に向け意欲的に学習に取り組んでいるという対象児童の実態から、下表案③の学習の流れで、以下のような1回90分の指導を行うこととしました。

- ア 発音の指導…気持ちを高める活動や発音の状態を確認する活動、カ行音の発音改善の活動
- イ 聞く力の指導…ターゲットとする音を正しく聞き分ける活動
- ウ 障害認識に関する指導…「できるようになった」という自信を高めることを目的とした活動

案	学習の流れ(1回90分)	実態から学習の流れを考えたときのポイント
①	ウ イ ア 障害認識→聞き分け→発音指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害認識が十分でなく、困り感があまりないとき</li> <li>・聞き分ける力がまだ十分でないとき</li> </ul>
②	イ ア ウ 聞き分け→発音指導→障害認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害についてはある程度理解しているが、発音の改善のねらいが明確でないとき</li> <li>・聞き分ける力がまだ十分でないとき</li> </ul>
③	ア イ ウ 発音指導→聞き分け→障害認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害認識がはっきりしていて、発音の改善の意思が強いとき</li> <li>・聞き分ける力が付いてきているとき</li> </ul>

**step2** 選んだ学習内容について、題材と目標等を考える

学習内容		
・ 構音器官の運動機能を高める ・ カ行の音づくりをする	・ カ行音を正しく聞き分ける	・ 楽しく言葉遊びに取り組む ・ 意識しながら「キ音」「ケ音」の発音をする



**対象児童の実態は？（児童観）**

自分のカ行の発音の誤りを意識し始めているなあ。  
構音器官の運動機能に未発達な部分があって、口の周囲の動きがよくないなあ。  
発音に誤りがあるため、周囲から聞き返されることがあるなあ。

**どのような題材にする？（題材観）**

ゲーム性を取り入れた楽しい活動を取り入れよう。  
構音指導の流れ（「k音」の音づくり→般化まで）に沿って活動を組み立てよう。

**どのように指導する？（指導観）**

対象児童自身が、できていることを聴覚的に確認するだけでなく、視覚的に確認することができるようにしよう。様々な感覚を使って、できていることに気付かせていこう。

○ 題材名

「楽しく言おう カ・キ・ク・ケ・コ」

○ 題材の目標

- ア 構音器官の運動機能を高め、カ行音の正しい構音操作を習得し、単音レベルで正しく発音することができる
- イ カ行音の正しい音と誤り音の聞き分けができる
- ウ 意欲的に言葉遊びなどの活動に取り組み、「カ行音」の発音を意識しながら楽しく話をするができる



対象児童の実態からできることを把握し、専門書などを参考に現段階の構音指導について確認しました。対象児童が次にできそうなことが何かを考え、目標となる行動を導き出し、題材の目標を設定しました。

○ 指導計画（カ行音の発音が改善するまで）

指導内容	時期 (月)	2年生											
	1年生 10~3月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
構音器官の機能訓練		→											
母音練習		→											
聞き分け訓練		→											
[k]音の練習		→											
[ki・ke]音		→											
[ka・ku・ko]音		→											
音韻分解の学習		→											
ことばの学習		→											

今現在の対象児童の段階

正しい音の聞き分け

自分の発音の聞き分け

単音

単語

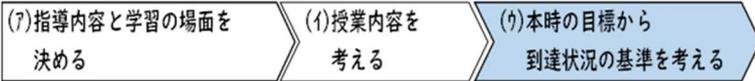
般化

「キ」と「ケ」のすぐろく

「カ行」のすぐろく

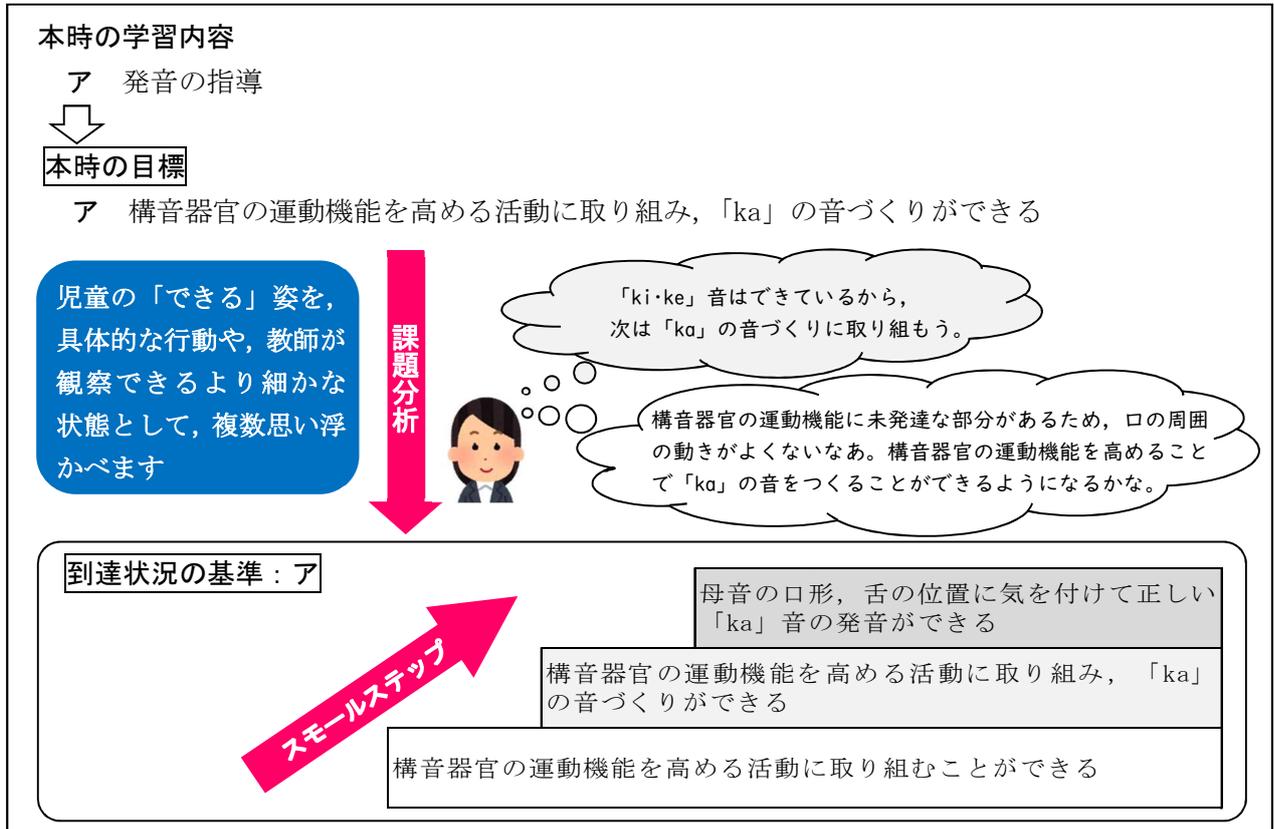


ア・イ・ウの学習内容を同時に関連付けながら、発音の改善から般化に向けて指導を継続します。



**(ウ) 本時の目標から到達状況の基準を考える**

- 本時の目標から、対象児童の「できる」姿を複数思い浮かべ、対象児童の実態に近い「できる」姿から段階的に積み上げる



ア 発音の指導では、対象児童の「できる」姿として既に発音することができる「ki・ke」音を使い、本時の目標である「ka」の音づくりができるようになることを目指して、到達状況の基準を考えていきました。

本時の学習内容

イ 聞く力の指導



本時の目標

イ カ行音の正しい聞き分けができる

児童の「できる」姿を、具体的な行動や、教師が観察できるより細かな状態として、複数思い浮かべます

課題分析



教師の発するカ行音を、正しく聞き分けることがどのくらいできるのかなあ。

自分の発するカ行音を聞き分けができるようになってほしいなあ。

到達状況の基準：イ

自分の発するカ行音の発音について、正しい聞き分けができる

教師の発するカ行音の正しい聞き分けができる

教師の発する「カ音」「ク音」「コ音」を聞き分ける活動に取り組むことができる

スモールステップ



イ 聞く力の指導では、対象児童の「できる」姿として、「教師の発する正しいカ行音の聞き分けができるようになる」「自分の発するカ行音の聞き分けができるようになる」というステップを考えて、到達状況の基準としました。

本時の学習内容

ウ 障害認識に関する指導



本時の目標

ウ 楽しく言葉遊びに取り組む中で、「キ音」「ケ音」の発音を意識しながら話することができる

児童の「できる」姿を、具体的な行動や、教師が観察できるより細かな状態として、複数思い浮かべます

課題分析



自分の「キ音」「ケ音」の発音の正しい音と間違いの音の違いに気付いてほしいなあ。

楽しく言葉遊びに取り組みながら、発音を間違えたときに意識して言い直しができるようになるといいなあ。

到達状況の基準：ウ

楽しく言葉遊びに取り組む中で、カ行音の発音を意識しながら話することができる

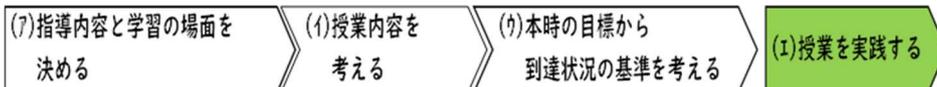
楽しく言葉遊びに取り組む中で、「キ音」「ケ音」の発音を意識しながら話することができる

楽しく言葉遊びに取り組む中で、「キ音」「ケ音」の発音に気付き、話することができる

スモールステップ



言葉遊びの中で発音できるようになった「キ音」「ケ音」を多く使うことで、「できる」ようになったことを繰り返し確認させたいと考えました。対象児童が正しく発音する言葉を、視覚的に確認しながら繰り返し練習できるように教材を工夫したいと考えました。



## (エ) 授業を実践する

### ○ 本時の目標

#### ア 発音の指導

構音器官の運動機能を高める活動に取り組み、「ka」の音づくりができる

#### イ 聞く力の指導

カ行音の正しい音の聞き分けができる

#### ウ 障害認識に関する指導

楽しく言葉遊びに取り組む中で、「キ音」「ケ音」の発音を意識しながら話をするができる

### ○ 本時の展開

#### ◎到達状況の基準から評価する

学習活動	教師の支援	評価・備考
1 今日の学習を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードや学習カードを使い、今日の学習の流れを知らせる</li> <li>ア・イ・ウそれぞれの学習活動のめあてを学習カードで確認し、自分の発音の課題をつかませる</li> </ul>	ホワイトボード 学習カード
2 サイコロトークをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマについて自由に話してもらい、最近の家庭や学校の状態などの状況確認をする</li> <li>本児の話し方を観察し、構音器官の動きの状況や、発音の状況を確認する</li> <li>カ行音の付く言葉を、聞き間違っ覚えていないか確認する</li> </ul>	サイコロ
3 しりとり風船バレーをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールを確認してから活動に入る</li> <li>本児の体全体の使い方を確認する</li> <li>カ行音の付く言葉などに、聞き間違っ覚えているものがないか確認しながら活動をする</li> </ul>	風船
4 カ行の発音練習をする <ul style="list-style-type: none"> <li>口や舌の体操</li> <li>「母音」の練習</li> <li>「k」の音づくり</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ke」から「ka」音の音づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい舌の動きや位置、口形ができていくかについて鏡を使って視覚的に確認させながら行う</li> <li>舌の脱力（挺舌15秒）ができていくか鏡を使って確認させる</li> <li>正しい母音の舌の位置や口形を確認しながら、練習を行う</li> <li>「k」の音をつくるための舌の動きを確認した後、音づくりに取り組む。スプーンで構音点の確認をして、意識をするように促す</li> <li>「ke」音の舌の位置から「ka」音の舌の位置へと移行する動きを確認させる</li> <li>鏡などを使い視覚的に確認させる</li> </ul>	鏡 口と舌の体操カード スプーン うがいコップなど  <b>◎評価：ア</b>
5 カ行音の聞き分け練習をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が口元を隠しカ行音をランダムに聞かせ、学習カードに書き取らせる</li> <li>絵カードを用いて、絵カードに描かれた絵の名前のどこにカ行音があるかを当てるゲームを行い、聞き分けができていくか確認する</li> </ul>	学習カード 絵カード など  <b>◎評価：イ</b>

<p>6 「キ」と「ケ」のすごろくをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音の課題を意識付けるために、すごろくゲームで遊ぶ中で、「キ音」「ケ音」について意識するように伝える</li> <li>・すごろくゲームで楽しく遊ぶ中で、「キ音」「ケ音」の文章レベルや般化レベルでの発音の状態を確認する</li> <li>・すごろくゲームで楽しく遊ぶ中で、本児が自分の発音の違いに気付き、言い直しができているか確認をする</li> </ul>	<p>すごろく</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">◎評価：ウ</div>
<p>7 今日の学習を振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習活動について教師と一緒に振り返りをする中で、できるようになったこと、頑張ったことを確認する</li> <li>・次回までに取り組むことを確認し、次回の学習内容に対する意欲をもたせる</li> </ul>	<p>学習カード</p>

🏠 本時の学習指導案へ

本時の授業を実践してみて感じたことや気付いたことを、整理しました。

「学習活動2 サイコロトーク」, 「学習活動3 しりとり風船バレー」

- ・発音の状況を確認することに時間を取り過ぎたなあ。  
次時は、口や舌の体操やうがいなど構音器官の運動機能を高める活動や、発音練習の時間を長くしたいなあ。

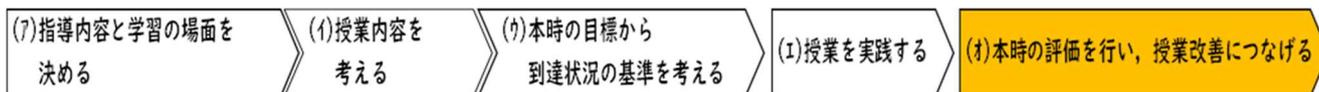
「学習活動4 カ行の発音練習」

- ・学習には意欲的に取り組んでいるが、十分に構音器官の運動機能が高まっていないなあ。次時は、教師と一緒に活動することで、モデルを見せるようにしたいなあ。
- ・「ki・ke」音の発音はできているが、「k」の音づくりが不安定だなあ。だから、「ka」の音をつくることができているのなあ。  
次時は、「k」の音づくりのステップが必要だから、到達状況の基準の見直しが必要だなあ。

「学習活動6 『キ』と『ケ』のすごろく」

- ・学習活動のめあての確認が十分でなかったなあ。また、対象児童が早く活動を終わらせたい気持ちが強く、自分の発する誤った発音の修正ができていないなあ。  
次時は、教材の工夫（スピーチシューの利用）、活動前に再度課題を確認すること、到達状況の基準の見直しが必要だなあ。





**(オ) 本時の評価を行い、授業改善につなげる**

**step1 到達状況の基準から、本時の目標に対する評価を行う**

評価の基となる対象児童の様子	到達状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構音器官の運動機能を高める活動に意欲的に取り組むことができた</li> <li>・ 十分に運動機能が高まっておらず、「k」の音づくりが不安定であるため、「ka」の音をつくることができなかった</li> </ul>	<b>ア</b> 構音器官の運動機能を高める活動に取り組むことができる
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の発するカ行・ガ行の音の聞き分けは、日常会話のレベルでできるようになっている</li> <li>・ 自分の発した間違い音に気付いているが、言い直すことができていない</li> </ul>	<b>イ</b> カ行音の正しい聞き分けができる
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すぐろく遊びで、「キ」と「ケ」の付く言葉の発音に気を付けて意欲的に取り組むことができた</li> <li>・ すぐろくの課題によっては、早くやり遂げたい様子が見られ、発音が不明瞭になってもそのまま続けてしまうことがあった</li> </ul>	<b>ウ</b> 楽しく言葉遊びに取り組む中で、「キ音」「ケ音」の発音に気付き、話をするができる

**step2 評価を基に授業を振り返り、本研究における6つの授業改善の視点に沿ってチェックし、改善の内容・方法を具体的に考える**

チェック	授業改善の視点	改善の内容・方法
	目標の設定	
✓	学習内容の設定	・ 口の体操やうがい、舌の脱力（挺舌）などの発音練習の時間を延ばす
✓	活動の場	・ 構音器官の動きや体の使い方、発音の状態を確認する時間を短くし、発音練習の時間を長く確保する
✓	教材・教具	・ 自分の発音を確認しやすくなるように、スピーチチューを使う
✓	教師の関わり	・ 授業の冒頭で学習活動のめあてを確認し、活動の前に再度課題をつかませ意識付けをする。 ・ 口頭での説明だけでなく、実際に教師も一緒に活動しモデルを示す
✓	その他	・ 到達状況の基準の見直しを行う

step3

前時の改善点を取り入れ、次時の授業を実践する



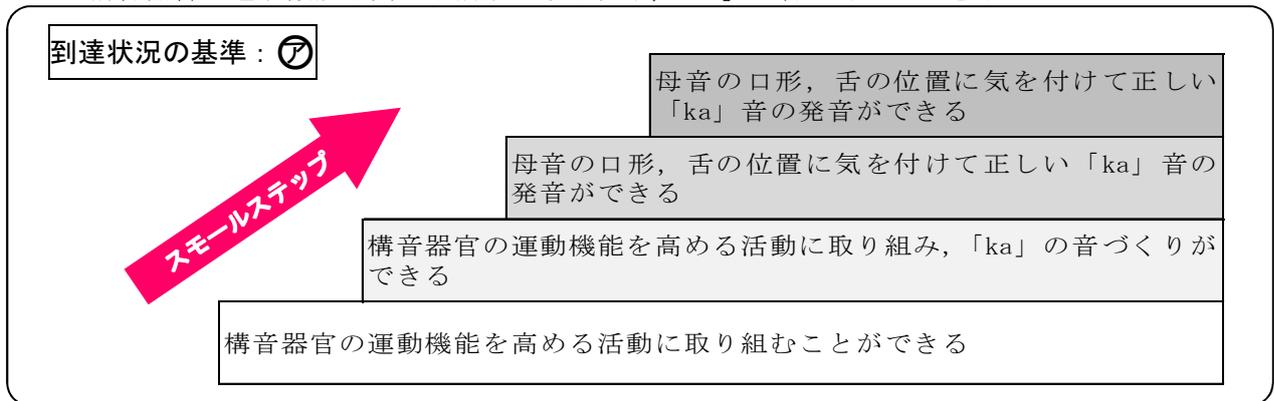
次時の目標は、変更点がないため、前時の目標を継続しました。  
 しかし、ア 発音の指導とウ 障害認識に関する指導の学習内容に関しては、  
 本時の評価から、目標に対する到達状況の基準を更に細かいスモールステップで見  
 直し、到達状況の基準：㉗と到達状況の基準：㉘に捉え直しました。

○ 次時の目標

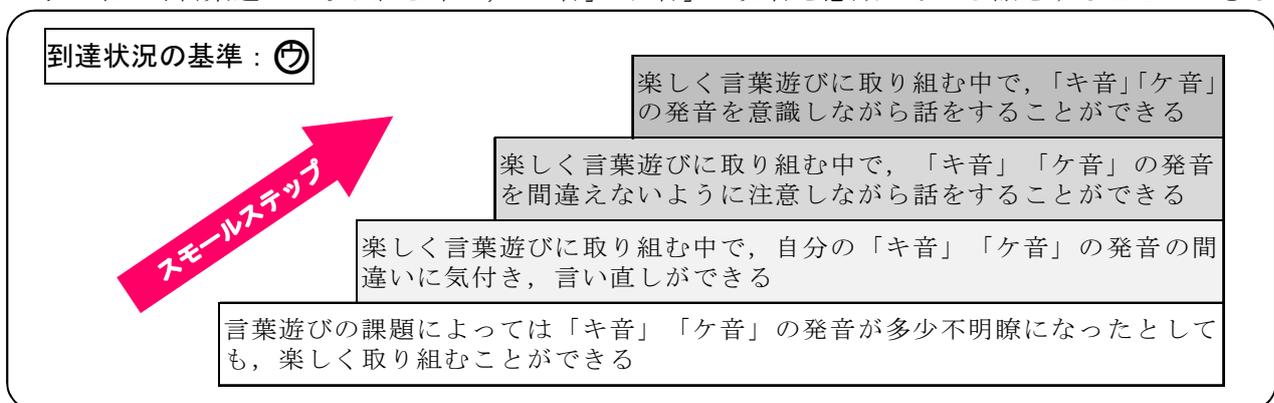
本時と同じ

○ 捉え直した到達状況の基準

ア 構音器官の運動機能を高める活動に取り組み、「ka」の音づくりができる



ウ 楽しく言葉遊びに取り組む中で、「キ音」「ケ音」の発音を意識しながら話をする事ができる



○ 次時の展開

◎到達状況の基準から評価する

学習活動	教師の支援（太字は改善の内容・方法）	授業改善の視点
1 本時の学習を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の流れを知らせる</li> <li>・<b>ア・イ・ウ</b>それぞれの学習活動のめあてを学習カードで確認し、自分の発音の課題をつかませる</li> </ul>	
2 サイコロトークをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>一人2回までサイコロをふる</b></li> <li>・最近の家庭や学校の状況などの状況確認をする</li> <li>・構音器官の動きの状況や、発音の状況を確認する</li> <li>・カ行音の付く言葉を聞き間違っていないか確認する</li> </ul>	←活動の場
3 しりとり風船バレーをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>時間を決めて活動に入る</b></li> <li>・本児の体全体の使い方を確認する</li> <li>・教師が言うカ行音の付く言葉を聞き間違えないか確認する</li> </ul>	←活動の場
4 カ行の発音練習をする <ul style="list-style-type: none"> <li>・口や舌の体操</li> <li>・「母音」練習</li> <li>・うがいからの「k」の音づくり</li> <li>・「k」の音づくり</li> <li>・「ki・ke」から「ka」の音づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい舌の動きや位置、口形ができているかについて、鏡を使って視覚的に確認させながら行う</li> <li>・舌の脱力（挺舌 15 秒）ができているか鏡を使って確認させる</li> <li>・正しい母音の舌の位置や口形を確認しながら、練習を行わせる</li> <li>・<b>うがいの水の量を減らしながら、「k」音の音づくりの舌の使い方を確認させる</b></li> <li>・「k」の音をつくるための舌の動きを確認した後、音づくりに取り組む。スプーンで構音点を確認して、意識するように促す</li> <li>・<b>「ki・ke」音の舌の位置からの「ka」音の舌の位置へと移行する動きを確認させる。教師の模倣や鏡などを使い、視覚的に確認させる</b></li> </ul>	←学習内容の設定  ←教師の関わり ←到達状況の基準の見直し ◎評価：㊦
5 カ行の音の聞き分け練習をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が口元を隠し、カ行音をランダムに聞かせ書き取らせる（単音レベルと無意味音レベル）</li> </ul>	
6 「キ」と「ケ」のすごろくをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>すごろくゲームが、ターゲットとなる「キ音」「ケ音」を意識した活動であることを告げ、発音の課題を意識付ける</b></li> <li>・スピーチシューを使って自分の発する音を聞かせ、「キ音」「ケ音」の文章レベルや般化レベルでの発音状態を意識させる</li> <li>・すごろくゲームで楽しく遊ぶ中で、自分の発音の間違いに気付き、言い直しができているか確認をする</li> </ul>	←教師の関わり  ←教材・教具 ←到達状況の基準の見直し ◎評価：㊧
7 本時の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習活動について振り返る中で、できるようになったこと、頑張ったことを確認する</li> <li>・次回までに取り組むことを確認し、次時への意欲をもたせる</li> </ul>	



### 授業後の対象児童の姿

- ・始めに活動のめあてを確認したことで、口の体操やうがい、舌の脱力（挺舌）等の活動に、主体的に取り組むことができました。活動時間の十分な確保や、活動内容の充実を図ることができました。
- ・到達状況の基準を捉え直すことで、本児自身が「k」音の音づくりに課題があることに気付きました。「できる」姿を細分化したことで、本児が課題を改善したいと強く願い、活動に取り組むことができました。その結果、「k」の音をつくり出すことができました。
- ・「キ音」と「ケ音」を意識しながら活動することができるようになりました。スピーチチューを用いて自分の発音を確認するように促すことで、自分の発音の誤りに気付き、言い直す様子が1～2度見られるようになりました。

## まとめ

### ○ 成果

- ・今回の実践では、「授業づくりナビ」に沿って授業づくりを進めました。具体的な指導内容を「～できる」で区切って分けることで、指導内容が整理しやすくなり、課題分析を参考に学習内容を考えることができました。その結果、自立活動の時間における対象児童の目指す姿が明らかになり、授業で取り組む活動や到達状況の基準を設定することができました。本時の評価を行い、更に細かくスモールステップを踏む必要があることが分かり、到達状況の基準を改善することができました。対象児童も自分の課題を認識することができ、主体的に学習活動に取り組むことにつながりました。
- ・本研究における6つの授業改善の視点に沿ってチェックすることで、改善の内容・方法を具体的に考えることができました。目標を達成するためには、構音器官の動きや発音の状態の確認、体の使い方を見る時間を短くする必要があることに気付き、次時では発音練習の時間や、聞き分ける練習の時間を長く確保することにつながりました。

### ○ 課題

- ・具体的な指導内容から対象児童の実態に即した学習内容や教材・教具を選定する際には、構音指導の専門書等を参考にしました。構音指導は専門的な指導内容を多く含んでおり、指導に当たっては構音指導に関する知識や技能について知っておく必要があります。そのため、実際の指導をするに当たっては、必要に応じて構音指導の経験を積んだ教師や外部の専門家との連携を図りながら構音障害の指導を行うことが有効であると感じました。